



この夏は、流行性眼感染症に注意しましょう！

感染制御部

TITLE

プール熱、今夏要注意 ウイルス変異？で患者増加か（朝日新聞06/15）

「プール熱」という感染症に異変が起きている。ウイルスで引き起こされる結膜炎と高熱を伴う病気で、夏場のプールを介して感染が広がるケースが多かった。ところがプールに入る機会が少ないはずの昨秋以来、例年の2～3倍もの患者が確認されている。原因はウイルスの変異で、寒くても強くなったことなどが考えられるが、正確な理由は不明のまま。専門家は幼児が多くかかるだけに、夏本番を前に注意を呼びかけている。

なぜ、冬に増えたのか、国立感染症研究所感染症情報センター第三室の多屋馨子（たや・けいこ）室長のコメントとして、（1）ウイルスが変異し、寒さに強くなった（2）医療機関での検査精度が上がり、発症の確認が増えた（3）温水プールで冬場に泳ぐ機会が増えた__などを挙げるが、「正確な原因は分かっていない」という。

咽頭結膜熱は、発熱(38度～39度)、咽頭炎(のどの痛み)、眼症状(目の炎症 結膜炎)を

主な症状とする小児の急性ウイルス性感染症です。アデノウイルスがその原因となります。プールを介して流行することも多く、「プール熱」と呼ばれています。

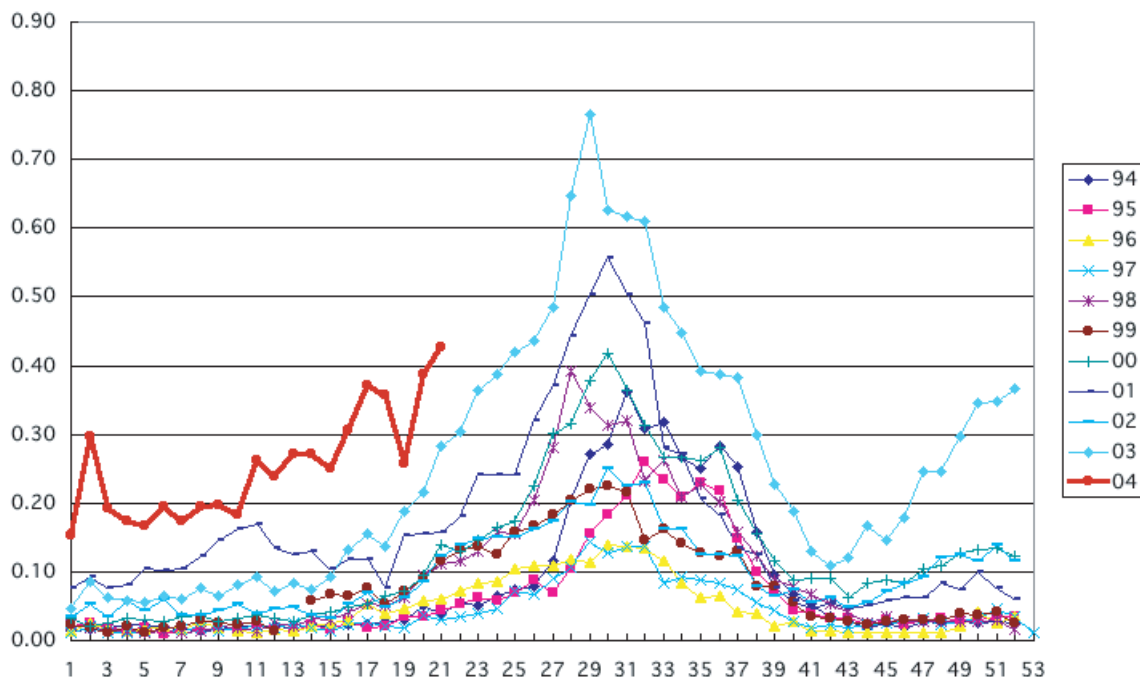
予防には、以下のことに気を付けるよう、お子様に注意ください。

- 流行時には、流水と石けんによる手洗い、うがいを励行する
- 感染者との密接な接触をさける（タオルなどは別に使う）
- プールからあがった時は、シャワーを浴び、目をしっかり洗い、うがいをする

また、お子様から大人への感染もときにみられるため、お子様がプール熱に罹患した場合は、注意深く症状を観察ください。

プール熱と同じアデノウイルスによる眼感染症である流行性角結膜炎(EKC：epidemic keratoconjunctivitis)は病院感染として重要な感染症です。接触感染で伝播し、潜伏期8～14日の後、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙を伴い、結膜充血、腫脹、濾胞形成などがみられる。感染力が強いため両側が感染しやすいが、初発眼の方が症状が強い。

咽頭結膜熱の年度別発生件数
(定点観測：厚生労働省)



入院中の患者が発症した場合には、個室隔離とし、感染制御部へご連絡ください。病室の消毒、手洗いは患者の触れたところを徹底して行ってください。

職員が発症した場合は、すぐに眼科を受診し、確定診断や疑診の場合には感染制御部にご連絡ください。院内感染予防対策を実施いたします。

夏場に向けて、ご家庭および病院内での流行性眼感染症の伝播予防に十分留意してください。とくに今年の夏は要注意のようです。